

週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

三重県議会議員へ水産政策要望

—水産関係団体—



7 月 31 日 (火) 自民党・三重県議会議員及び 8 月 3 日 (金) 新政みえ・三重県議会議員に対して、水産関係団体で水産政策要望を行った。内容は、次の通り。

1、水産政策の改革について

(1) 漁協系統の役割を重視すること

2、漁場環境・資源管理について

(1) 豊かな伊勢湾を取り戻すため、貧栄養化対策等の検討

(2) アサリ等二枚貝の資源回復のための漁場整備 (種苗・育成場所の確保) 及びアサリ資源の安定生産に向けたアサリ協議会への支援

(3) コウナゴ減少の原因究明と資源回復への取組支援

(4) 密漁防止対策の強化と漁業者が行う資源管理に関する取組支援

(5) 水産多面的機能に関する取組支援の継続

3、強い生産基盤づくりについて

(1) 浜再生プラン、広域浜プランを基調とした漁業活性化への取組支援

(2) 広域浜プラン関連事業 (機器導入事業、漁船リース事業) の継続

4、漁業後継者対策について

(1) 浜を支える中核的漁業者の育成や新規漁業者定着への支援

(2) 県農林水産支援センターを活用し、市町等地域と密接に連携した後継者対策の推進

5、のり養殖振興について

(1) 漁家経営の効率化を図る黒ノリ共同加工施設整備等への支援

(2) 漁期中に必要な海況情報提供の継続と拡充

(3) 三重ブランドとなったアオサ養殖への支援 (研究、PR)

6、魚類養殖の振興について

(1) 養殖漁家の経営改善や生産規模拡大への支援

(2) 伊勢まだいに続く養殖魚等のブランド構築への支援

(3) 養殖用餌飼料の安定確保への支援

7、水産物消費拡大について

(1) 三浦活魚流通センター等の加工流通体制支援と首都圏等の大規模マーケットでの三重県産水産物の競争力の強化

(2) 東京オリンピック・パラリンピッ

ク等を契機とした国内外への県産水産物ブランド力向上

8、消費税の軽減税率について

(1)受託販売手数料に係る税率の検討

9、漁業近代化資金について

(1) 漁業近代化資金の補正予算、次年度以降の融資枠の確保及び増額

10、勉強会等の開催について

(1) 三重県の漁業の発展を目的に、三重県議会議員の皆様と漁協系統との勉強会等の定期的な開催

三重県農林漁業就業・就職フェア
—7月28日(土)於三重県総合文化センター—



7月28日(土)、津市の三重県総合文化センター第1ギャラリーに於いて、県内の農林漁業に就業・就職を希望する方を対象に、「三重県農林漁業就業フェア2018」が開催され、県内から47の事業所等が出展した。当日は、台風12号の接近もあり、来場者の減少も心配されたが、162名もの来場者があり、各ブースでは、積極的に個別就業相談が行われていた。また、第2ギャラリーでは、展示コーナーが設けられ、三重県漁業担い手対策協議会では、三重の水産業がわかる冊子や資料、ポスターを展示した。なお、休憩場所が設置された正面のスクリーンには、「三重の漁業」の映像が繰り返し流され、興味のある方はメモを取りながら映像に見入っていた。

「熊野市遊木漁師塾」短期研修開催
—7月21日(土)~23日(月)於熊野市—



遊木漁民センターでの開講式と地区散策

7月21日(土)~23日(月)、熊野市遊木町において、平成30年度熊野市遊木漁師塾短期研修が開催された。

この研修は、昔からサンマ棒受け網漁業が盛んに行われている遊木地区の将来を担う漁業者候補を探すため、熊野漁業協同組合が主体となって地域の魅力ある漁業を体験してもらうことを目的としていたが、ここ2年ほどサンマが不漁ということで今回、定置網漁業に特化して募集し、東京、愛知から各1名の計2名が参加した。初日は地区の概要、漁業種類の説明、2日目~最終日までは定置網漁業体験が実施され、参加者は漁獲されたイワシやサバの水揚げ作業や選別作業等を体験した。研修後、一部の参加者から、「もう少し研修を受けたい」という意見が出たため、漁師塾としては今後、中期・長期での研修の実施も含めて、就業者獲得のための活動を積極的に進めていく予定。

【主な予定】

○8月22日(水)

黒海苔漁期前研修会(松阪)

○8月30日(木)

水産政策の改革説明会(津)

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。